



第四回修正會計原法案

1283



114
A2649

説明要領

會計原法第四回修正案ヲ提出セサル可ラサル所以ノ事由ハ既ニ第三回ノ修正ヲ終タル原案中ニ於テ左ノ各項ヲ發見セシニ因ル

第一 法律條裁上ニ於テ

- A 原案第一章第二款ニ主計局出納局等ノ職務ヲ記載シタルハ餘リ繁細ニ失スルコト
 - B 原案第一章第四款ニ日本銀行總裁ノ職務ヲ記載シタルハ有年限特別ノ規約ト永久ノ法律トヲ混同シタルコト
 - C 原案第六章ニ會計検査院ノ職務權限ヲ記載シタルモ此ノ如キハ特別ノ法律ニ讓ルヲ可トスルコト
 - D 原案第八章ニハ現在ノ官有財産處分法ノミナラス官有財産ヲ得ルノ方法マテヲ混合シタルコト
- 第二 出納順序上ニ於テ
- A 原案ノ制度ニテハ非常許多ノ人員勞費ヲ要スルコト

大
限
正
會
計
原
法
第
四
回
修
正
案
第
一
條
裁
上
ニ
於
テ

- B 原案ノ説明ニ因レハ戶長マテモ出納官ト爲シ身元金ヲ納メシムル者ノ如シ實際決シテ行ハル可ラサル事實アルコト
- C 國庫出納上ニ微細ノ科目ヲ用ユルハ繁雜ニ失シ各廳ト國庫トノ間ニ於テ誤謬百出定期内ニ歲計ノ結果ヲ見ル能ハサルコト
- D 經費支出前大藏省主計局ノ承諾登記ヲ經ルハ行政機關ノ運轉ヲ遲緩ニスルノ害ト出納監督ヲ嚴ニシタルノ益ト相償ハサルコト

其他瑣細ノ事項ニ至テハ一々之ヲ説明セス
 明治二十一年二月廿四日

會計原法審査委員
 大藏省主計局長渡邊國武

會計原法

目次

| | | | |
|-----|------|--------|--------|
| 第一章 | 總則 | 從第一條 | 至第九條 |
| 第二章 | 豫算 | 從第十九條 | 至第二十九條 |
| 第三章 | 收入 | 從第二十六條 | 至第三十六條 |
| 第四章 | 支出 | 從第三十七條 | 至第四十七條 |
| 第五章 | 決算 | 從第四十八條 | 至第五十八條 |
| 第六章 | 官有財產 | 從第四十九條 | 至第五十九條 |
| 第七章 | 雜則 | 從第六十四條 | 至第六十五條 |

會計原法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ官金ト稱スル者ハ政府ニ屬スル所ノ一切ノ金錢
證券ヲ云フ官有財産ト稱スル者ハ政府ニ屬スル所ノ一切ノ動産
不動産ヲ云フ

説明 本條ハ官金官有財産ノ釋義ヲ明カニス

第二條 本法ニ於テ會計主務官ト稱スル者ハ大藏大臣若クハ各省大
臣ニ隸屬シ各所屬ノ會計ヲ監査整理スヘキ責任ヲ有スル所ノ官
吏ヲ云フ

各會計主務官ハ各省大臣ニ隸屬スル所ノ者ト雖モ大藏大臣ノ同
意ヲ得テ之ヲ任免シ其會計監査上ニ就キテハ大藏大臣監督ノ下

ニ在ル者トス

説明 本條ハ會計主務官ノ職務ヲ示シ且ツ大藏大臣カ之ニ對スル職權ヲ明カニス

第三條 本法ニ於テ會計年度ト稱スル者ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル所ノ十二ヶ月間ノ會計事務執行ノ期ヲ云フ會計管理期ト稱スル者ハ各會計主務官一會計年度中ノ在職間ニ於テ會計事務ヲ執行シタル時日ヲ云フ

説明 本條ハ會計年度會計管理期ノ釋義ヲ明カニス

第四條 本法ニ於テ國庫ト稱スル者ハ大藏大臣直轄ノ金庫局及ヒ各地方ニ設置スル所ノ國庫金出納所及ヒ其支所ヲ云フ

説明 本條ハ國庫ノ釋義ヲ明カニス

第五條 一會計年度内ニ於テ政府カ收入スヘキ權利ヲ得及ヒ支拂フヘキ義務ヲ生シタル者ヲ其年度ノ所屬ト定ムヘシ一ノ會計年度所屬ノ歳入歳出ト他ノ會計年度所屬ノ歳入歳出トヲ混同計算スルヲ得ス

説明 本條ハ年度所屬ヲ明カニシ混同ヲ禁ス

第六條 各會計年度所屬歳入歳出賦課支出ノ命令ハナルヘク其年度内ニ於テ之ヲ發スヘキ者トス其實際止ムヲ得サル事狀アリテ年度内ニ於テ之ヲ發スル能ハサリシ所ノ者ハ其事狀ヲ證明シ大藏大臣ノ承認ヲ得テ翌年度六月三十日マデ之ヲ發スルヲ得國庫ノ出納ハ翌年度九月三十日マデニ之ヲ閉鎖スヘシ

説明 本條ハ命令發出猶豫期限ヲ與ヘ且ツ國庫閉鎖ノ期ヲ定ム

第七條 租稅其他ノ財源ヨリ收納スル所ノ資金ハ總テ之ヲ歲入トシテ國庫ニ納入シ收稅費其他各廳一切ノ經費ハ總テ之ヲ歲出トシテ國庫ヨリ支拂フヘシ各省ニ於テ直チニ收入ヲ以テ支出ニ充ツルヲ得ス但本法第八條第一項ニ掲クル所ノ者ハ此限ニ非ス

說明 本條ハ會計ノ濫雜ヲ防ク

第八條 事務ノ性質又ハ資金ノ種類ニ因リ一般ノ歲計ヨリ分離シ別途ノ整理ヲ要スル者アル時ハ立法院ノ議決ヲ得勅裁ヲ以テ之ヲ定ムヘキ者トス

前項ノ手續ヲ經タル者ノ外各廳ニ於テハ名義ノ如何ヲ問ハス一切特別ノ資金若クハ財産ヲ管理スルヲ得ス若シ違フ者アル時ハ刑法第二篇第九章第二百八十九條ヲ以テ之ヲ論ス

說明 本條ハ特別會計設置ヲ許シ隱密資金ヲ禁シ其刑典ヲ明カニス

第九條 各廳各官吏ニ於テ名義ノ如何ヲ問ハス法律ニ正條ナキ租稅賦金及ビ歩合金ノ類ヲ帝國人民ニ向テ賦課徵收スルヲ得ス若シ違フ者アル時ハ刑法第二篇第九章第三節第二百九十條ヲ以テ之ヲ論ス

說明 本條ハ無法律ノ賦課徵收ヲ禁シ其刑典ヲ明カニス

第二章 豫算

第十條 各會計年度ニ於テ要スル所ノ政府一切ノ歲入及ヒ歲出ノ總豫算書ハ毎年立法院ニ於テ議決シ勅裁ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但既定ノ法律ニ依リ徵收スル所ノ租稅其他ノ歲入及ヒ皇室費内外國債利子及ヒ其他既定ノ法律執行ニ必要ナル經費ハ立法院ニ於テ

之ヲ拒否スルヲ得ス

六

總豫算書ハ前年度十二月一日マテニ立法院ニ提出スヘシ

説明 本條ハ豫算ノ原則ヲ示シ立法院ノ權ヲ限ル若シ憲法上明文アレハ之ヲ省クモ亦可ナリ

第十一條 立法院ハ政府ノ請求ナキ經費ヲ議決シ又ハ請求高二超過

シ若クハ超過スヘキ結果ヲ有スル決議ヲ爲スヲ得ス

立法院ハ政府ノ請求ナキニ新稅ヲ起シ若クハ政府ノ請求ナクシテ現行稅率ヲ増加スヘキ決議ヲ爲スヲ得ス

説明 本條ハ立法院ノ權ヲ限ル

第十二條 各會計年度ノ豫算ハ該年度ノ開始前ニ議決シ勅裁ヲ經テ

之ヲ頒布スヘシ若シ決定ニ至ラサルコアル時ハ前年度ノ豫算ニ

據リ收支ヲ執行スルヲ得但既定ノ法律施行ノ爲メ必要ナル修正ヲ要スル者アル時ハ參事院ノ意見ヲ諮詢シ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

説明 本條ハ豫算議決ニ至ラサル時ノ處分ヲ定ム

第十三條 大藏大臣ハ左ノ書類ヲ印刷シテ總豫算書ト共ニ立法院ニ

提出スヘシ

各省大臣ノ豫定經費請求書

其年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ總計算書

説明 本條ハ總豫算書ニ副フヘキ書類ヲ定ム

第十四條 各省大臣ニ於テ政府歳出ノ増加トナリ又ハ歳入ノ減少ト

ナルヘキ處分ヲ爲シ若クハ事項ヲ許可セントスル時ハ大藏大臣ノ同意ヲ得テ參事院ノ意見書ヲ付シテ勅裁ヲ乞フヘシ

七

説明 本條ハ歳出増加歳入減少ノ處分ヲ鄭重ニス

第十五條 歳入豫算書ハ歳入ノ種類ヲ明カニシ各項其基ク所ノ法律ヲ示スヘシ

歳出豫算書ハ各省ヲ以テ區分シ之ヲ各項ニ分チ一項中ニハ人員費ト物品費トヲ混スルヲ得ス而シテ立法院ニ於テハ項毎ニ豫算ヲ議決スル者トス其項數ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ據リ立法院ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ス

説明 本條ハ總豫算書編製ノ式ヲ示シ且ツ立法院ノ權ヲ限ル

第十六條 立法院ニ於テ議決シ勅裁ヲ經テ決定シタル場合ノ外ハ各項ノ金額ヲ彼此互ニ流用スルヲ得ス

説明 本條ハ各項流用ヲ禁ス

第十七條 豫算定額ノ到底避クヘカラサル不足ヲ補充スル爲メ次ノ

二項ヲ置キ各特別ノ定額ヲ許可ス

法律ノ執行ヨリ生シタル義務ノ經費ヲ支辨スヘキ第一豫備金

豫期スルヲ得サル必要ノ經費ヲ支辨スヘキ第二豫備金

第一豫備金ノ支出ヲ精確ニスル爲メ毎年度豫算書中ニ法律ノ執行ヨリ生スヘキ義務ノ經費科目ノ名稱ヲ揭示スヘシ

説明 本條ハ豫備金ノ制ヲ立ツ

第十八條 第一豫備金ノ支出ハ大藏大臣之ヲ定メ會計検査院へ通知スヘシ

第二豫備金ノ支出ハ大藏大臣ヨリ參事院ニ諮詢シ勅裁ヲ以テ之

ヲ定ム

第二豫備金ノ支出ヲ決定シタル時ハ官報ヲ以テ之ヲ公布スルモノトス

第二豫備金ヲ支出シタル時ハ次回ノ立法院開會ノ時直チニ該院ニ報告シ其承認ヲ受クヘシ

説明 本條ハ豫備金支出ノ法ヲ定ム

第十九條 一會計年度中ニ於テ歳入徴收ニ先タツ所ノ經費支出ヲ一時補填スルカ爲メニ發行スル所ノ大藏省證券ノ發行最高額ハ毎年豫算書ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

説明 本條ハ大藏省證券發行ノ制限ヲ立ツ

第三章 收入

第二十條 第一部歳入即チ租稅ヲ徴收セントスル時ハ各府縣知事若クハ其委任ヲ受タル次等命令官(郡區長)ハ別ニ定ムル所ノ法律規則ニ從ヒ各町村戸長若クハ納稅人ニ向テ徴稅令書ヲ發シ稅務ヲ掌ル所ノ各會計主務官(收稅長及ヒ郡區吏)檢印帳記シテ之ヲ各町村戸長若クハ納稅者ニ傳達スヘシ

説明 本條ハ徴稅令ノ出ツル所ヲ明カニス而シテ本法ニ於テハ直稅ニ限り町村吏ハ總代ノ資格ヲ以テ各人民ヨリ取集メテ國庫ニ納入スルノ義務アル者ト定ム

第二十一條 各町村戸長若クハ納稅人ハ前條ノ徴稅令書ニ現金ヲ添ヘ之ヲ國庫ニ納入シテ其領收印ヲ徴シ之ヲ各會計主務官ニ致シ其義務解除ノ證書ヲ得テ政府ニ對スル義務ヲ解ク

説明 本條ハ納稅義務解除ノ分界ヲ明カニス

第二十二條 稅務ヲ掌ル所ノ各會計主務官ハ毎月徵稅令書ヲ發シタル所ノ租稅額及ヒ國庫ニ納入セシ所ノ租稅額ヲ區別シ其結果ヲ明カニシテ翌月初旬ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

說明 本條ハ各會計主務官ノ義務ヲ示ス

第二十三條 大藏大臣ハ大藏省主計局長ヲシテ前條ノ報告書ヲ審査シ且ツ國庫現金ノ收入ニ照合セシメ未納若クハ適法ナラサル者アリト認ムル時ハ府縣知事若クハ各會計主務官ニ向テ督促ヲ行ヒ又ハ國庫及ヒ各會計主務官ニ向テ行政上ノ會計監督ヲ行ハシムヘシ

說明 本條ハ大藏大臣收入上ノ行政監督權ヲ明カニス

第二十四條 第二部歳入即チ雜收入ヲ徵收セントスル時ハ本法第二

十五條ニ掲クル所ノ官業收入官業益金登記手数料ヲ除クノ外各省大臣若クハ其委任ヲ受タル次等命令官納人ニ向テ納額令書ヲ發シ會計主務官檢印帳記シテ之ヲ納人ニ傳達ス其納人ノ義務ヲ解除シ會計主務官結果ヲ大藏大臣ニ報告シ大藏大臣大藏省主計局長ヲシテ行政上ノ會計監督ヲ行ハシムル等ハ本法第二十一條第二十二條第二十三條ニ同シ

說明 本條ハ第二部歳入納入ノ順序ヲ明カニス

第二十五條 官業收入官業益金及ヒ登記手数料ヲ國庫ニ納入スルノ順序ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

說明 本條ハ官業收入官業益金登記手数料收入ノ法ヲ定ム

第二十六條 如何ナル事情アルヲ問ハス租稅其他ノ收入ハ法律ヲ以

十四
テ公許シタル場合ノ外之ヲ特免シ又ハ延納ヲ許可スルヲ得ス

説明 本條ハ歳入ノ特免延期ヲ禁ス

第四章 支出

第二十七條 凡ソ經費ヲ支出セントスル時ハ各省大臣若クハ其委任
ヲ受タル次等命令官ハ每會計年度ノ豫算ヲ以テ許可セラレタル
各項ノ金額以內ニ於テ各會計主務官ニ向テ支出ノ命令ヲ下スヘ
シ而シテ該命令書ニハ必ス其官名ヲ署スヘキ者トス

説明 本條ハ支出命令權ノ出ル所ヲ明カニス而シテ毎月支出ノ總額ハ前以テ大

藏大臣ノ承認ヲ受サル可ラス

第二十八條 各會計主務官支出ノ命令ヲ受ル時ハ之ヲ其年度ノ豫算
ニ照合シ果シテ適法ナリヤ否ヤヲ監査シ適法ナリト認ムル時ハ

別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ支出ノ金額及ヒ其債主ノ姓名ヲ記載
シタル仕拂切符ヲ製シ之ヲ其債主ニ交付シ國庫ヨリ現金ヲ領收
セシム

説明 本條ハ會計主務官ノ職務ヲ明カニシ經費支拂ノ法ヲ定ム

第二十九條 各會計主務官前條ノ命令適法ナラスト認ムル時ハ其事
由ヲ具シテ一應所屬大臣ニ申立ヘシ而シテ尙其大臣自己ノ責任
ヲ以テ之ヲ決行スヘシト命令スル時ハ該命令ニ因リ速ニ支出ノ
手續ヲ爲サ、ル可ラス

説明 本條ハ各省大臣ノ職權ヲ明カニス

第三十條 各會計主務官ハ毎月監査スル所ノ經費支出ノ結果ヲ明カ
ニシ其大臣責任ヲ以テ支出ヲ命令セシ者アル時ハ之ヲ區別シ翌

月初旬ニ之ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

十六

説明 本條ハ會計主務官ノ職務ヲ示ス

第三十一條 大藏大臣ハ大藏省主計局長ヲシテ前條ノ報告ヲ審査シ且ツ之ヲ國庫現金ノ仕拂ニ照合セシメ其適法ナラサル者アルト認ムル時ハ國庫及ヒ各會計主務官ニ向テ行政上ノ會計監督ヲ行ハシムヘシ

説明 本條ハ大藏大臣支出上ノ行政監督權ヲ明カニス其結果ハ年度ノ終ニ於テ

會計検査院ニ送付シ検査ノ材料ニ供スヘキ者トス

第三十二條 國債元利金支出ノ方法ハ別段ノ法律規則ヲ以テ之ヲ定

ム

説明 本條ハ國債元利金支出ノ方法ヲ定ム

第三十三條 各省大臣ハ政府ニ對スル正當債主ノ外關係ノ官吏等ニ

現金ヲ交付スヘキ命令ヲ發スルヲ得ス但左ノ場合ニ於テハ特ニ關係ノ官吏ニ現金ヲ前渡スルヲ得

陸海軍隊及ヒ艦隊ニ屬スル經費ニシテ必要止ムヲ得サルモノ但燈臺巡廻船航行費モ本行ニ準ス
在外各廳ノ經費

前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

運輸通信ノ便少ナキ内國ノ僻地ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

土木建築工事ニシテ各官廳ニ於テ直接ニ從事スル所ノモノニ係ル經費

前項ニ據リ現金前渡ヲ受タル官吏ハ各會計主務官ニ向テ其支拂

十七

ノ正當確實ナルヲ證明シ其決算ヲ遂クヘキ者トス

十八

說明 本條ハ現金前渡ノ種類ヲ限リ其結果ヲ定ム

第三十四條 前條第五項ニヨリ現金前渡命令ヲ發シ得ル金額ハ一官吏毎ニ三千圓ヲ超過スルヲ得ス

前ニ發シタル現金前渡ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂整理ノ終リタル後ニアラサレハ更ニ同官吏ノ爲メニ他ノ命令ヲ發スルヲ得ス但此場合ニ於テハ前ノ命令ノ仕拂整理未濟額ト新ニ發スル命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超過スルヲ得ス

說明 本條ハ現金前渡ノ額ヲ限ル

第三十五條 本法第三十三條第一項第二項第三項第四項ノ經費中其恒例ニ係ルモノニシテ必要止ムヲ得サル者ニ限り大藏大臣ノ承

認ヲ經テ年度開始前ニ於テ仕拂ヲ命令スルヲ得

前項ノ金額ハ該年度豫算毎項ノ定額四分ノ一ヲ超ユヘカラス但該年度ノ豫算未タ決定ニ至ラサル時ハ現年度ノ豫算ニ據ルヘシ

說明 本條ハ年度開始前ノ支出ヲ許シ且ツ制限ヲ立ツ

第三十六條 各廳ノ名ヲ以テ命スル工事又ハ物品ノ買入ハ之ヲ公告シテ競争セシメ且ツ請負ヲ爲サシムヘシ但特別ノ法律ヲ以テ定メタル者及ヒ左ノ各項ニ係ル者ハ此限ニ非ス

專賣特許ヲ受タル物品又ハ一人ノ外他ニ賣人又ハ貸人ナキ物品ヲ買入又ハ借入ル、并

政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ事情アル并買入ル、物品物品ノ運送及ヒ工事但此場合ニ於テハ豫メ勅裁ヲ乞フヘシ

十九

非常避クヘカラサル場合ニシテ競争ニ付スルノ暇ナキヲ買入ル、物品物品ノ運送及ヒ工事

特別ノ性質又ハ特別使用ノ目的アルニヨリ産出ノ場所ニ就キ又ハ生産人ヨリ直接ニ買上ルヲ要スル物品

特別ノ職工ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル美術品機械及ヒ精巧ノ物品ヲ注文スルキ

土地家屋ヲ借入又ハ買上ルニ當リ特別ノ狀況ニヨリ競争ニ付シ能ハサルキ

一年度二千圓ヲ超ヘサル所ノ費用

行軍演習ノ爲メ損害ヲ與ヘタル作物等ヲ買上ルキ

軍馬ヲ買入ル、キ

試験ノ爲メニスル耕作製造又ハ物品供給

貨幣金銀塊及ヒ爆發物ヲ運搬スルキ

法律ヲ以テ許サレタル取引所ニ於テ其取引所ノ相庭附ニヨ

リ取引ノ物件ヲ賣買スルキ

説明 本條ハ買上請負上公然入札ノ制ヲ立テ其取除ヲ示ス

第五章 決算

第三十七條 各會計年度ノ總決算書ハ該年度出納ノ閉鎖後二ケ年以

内ニ會計検査院ノ検査ヲ經之ヲ立法院通常會ニ提出スヘシ總

決算書ハ立法院ニ於テ議決シ勅裁ヲ以テ之ヲ確定ス

説明 本條ハ總決算書提出ノ期ヲ定メ且ツ其確定ノ法ヲ明カニス

第三十八條 總決算書ニハ豫算書ト同一ノ様式ヲ以テ左ノ事項ノ計

算ヲ示スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテノ間ニ命令済トナリタル

歳入額

徴收済トナリタル歳入額

徴收未済トナリタル歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額及ヒ豫算決定後ニ修正追加シタル定額

命令済トナリタル歳出額

仕拂済トナリタル歳出額

仕拂未済トナリタル歳出額

翌年度へ繰越スヘキ歳出額

歳出残額

説明 本條ハ總決算書ノ式ヲ定ム

第三十九條 大藏大臣ハ左ノ書類ヲ印刷シテ總決算書ト共ニ立法院

ニ提出スヘシ

各省決算報告書

官有財産計算書

説明 本條ハ總豫算ニ副フヘキ書類ヲ定ム

第四十條 各年度ニ於テ歳入ニ殘餘アル時ハ國債元金ノ償還ニ充ツ

ヘシ

説明 本條ハ決算殘餘ノ處分ヲ定ム

二十四

第四十一條

一ケ年若クハ數年ヲ要スル土木建築工費ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メニ工事落成ニ至ラサリシ經費ハ大藏大臣ノ承認ヲ得テ翌年度ニ繰越シ使用スルヲ得

本法第三十八條歲出ノ部第四項ノ仕拂未濟金額ハ翌年度ニ繰越シ支拂フコトヲ得

大藏大臣ハ經費ノ金額ヲ翌年度ヘ繰越シタル時ハ如何ナル法律ニ基キタルヤヲ明カニシ會計検査院ニ通知スヘシ

説明 本條ハ繰越ニ制限ヲ立ツ

第四十二條

各會計主務官ハ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ一會計年度中又ハ一會計管理期中ニ執行シタル會計主務ノ成績ヲ明ニシタ

ル計算書ヲ眞誠確實ニ調製シ證憑書類ヲ副ヘ會計検査院ニ提出シ本法第五十六條ニ掲クル所ノ責任解除ヲ求ムヘシ但本法第二十九條大臣責任ヲ以テ支出シタル經費ニ就キテハ會計主務官其責ニ任セス

會計主務官ノ計算書ハ提出ノ後修正變更ヲ加フルヲ得ス

説明 本條ハ會計主務官責任解除ノ常法ヲ示ス

第四十三條

各會計主務官ハ前條ノ計算書ヲ提出シタル後三年ニシテ會計検査院ヨリ其責任トナルヘキ判決ノ宣告ヲ受サレハ確定ノ責任解除ヲ得タル者トス

説明 本條ハ會計主務官責任解除ノ變法ヲ示ス

第四十四條 會計主務官ノ計算書ニ對シ會計検査院ニ於テ確定ノ判

二十五

決ヲ宣告セシ者ト雖其宣告ノ日ヨリ三ケ年以内ニ於テ右宣告後ニ得タル證憑書ヲ添ヘ會計主務官ヨリ再審ヲ出願スルハ又ハ他計算書ノ検査ニヨリ發見シタル誤謬脫漏若クハ二重計算ノ廉アルニヨリ所屬大臣ヨリ再審ノ請求アル時ハ會計検査院ニ於テ再審ヲ爲スコアルヘシ

本條ニ定メタル三ケ年ノ期限ヲ超ヘタルト雖其詐偽ノ證憑書ヲ提出シ判決ノ宣告ヲ得タル計算書ハ其事實發見シタル時何時ニテモ再審ヲ爲スヘシ

說明 本條ハ會計主務官再審ノ法ヲ定ム

第四十五條 會計主務官會計検査院ノ判決ヲ以テ法律規則ニ違背シタルモノト信スル時ハ其判決宣告ノ日ヨリ九十日以内ニ參事院

ニ上告スルコトヲ得

會計検査院再審ノ判決ニ對シテハ上告スルヲ得ス

說明 本條ハ會計主務官ニ上告ヲ許ス

第四十六條 人民ヨリ政府ニ納ムヘキ租稅其他ノ收入金ニシテ其所屬年度ノ經過後滿五ケ年以内ニ政府ヨリ納入ノ告知並ニ督促ヲ受サルモノハ其納入ノ義務ヲ免レタル者トス但詐偽其他故意ノ奸謀ヲ以テ事實ヲ隱蔽シテ納入ヲ免レタル者及ヒ特別ノ法令ヲ以テ納入金期滿得免ノ期限ヲ定メタル者ハ本條ノ外トス

說明 本條ハ收入ノ期滿得免ヲ定ム

第四十七條 政府ノ負債ニシテ其所屬年度經過後五ケ年以内ニ仕拂ノ請求ヲ爲サルモノハ期滿失權トシテ政府ノ所得ニ歸スヘシ

特別ノ法律規則又ハ契約ニ依リ別ニ期滿失權ノ期限ヲ定メタル者ハ本條ノ外トス

說明 本條ハ支出ノ期滿失權ヲ定ム

第四十八條 政府ノ所爲又ハ訴訟事件ニ妨ケラレ**支出**ヲ請求スル能ハサルカ若シハ仕拂ヲ請求スル能ハサルハ前條ヲ適用セス

說明 本條ハ期滿失權ノ取除ヲ定ム

第六章 官有財産

第四十九條 官有不動産ハ官用ニ供セラレタル者ヲ除クノ外總テ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

官用ニ供セラレタル不動産ハ主務ノ各省大臣之ヲ管理スヘキ者トス但其官用終リタルハ前項ニ據ルヘシ

說明 本條ハ官有不動産管理者ヲ定ム

第五十條 官有不動産ハ立法院ニ於テ之ヲ議決シ勅裁ヲ經ルニ非サレハ之ヲ賣却スルヲ得ス但永久官有財産ニ組入レサル所ノ者ハ參事院ノ意見ヲ諮詢シ勅裁ヲ以テ之ヲ許可ス
前項不動産ノ賣却ハ大藏大臣之ヲ執行シ會計検査官其場ニ臨監スヘキ者トス

說明 本條ハ官有不動産賣却ノ制ヲ定ム

第五十一條 各省大臣ハ其省用ニ屬スル動産ヲ管理スルモノトス各省所管ノ動産中不用ニ歸シタル者アルハ規則ニ從ヒ之ヲ處分シ其賣却代金ハ其年度ノ歲入ニ編入スヘシ但永久財産ニ編入シタル動産ハ本法第五十條ニ據ルモノトス

各省大臣ハ或ル動産ヲ以テ直チニ他ノ動産ニ交換スルヲ得ス

説明 本條ハ官有動産ノ管理ヲ定メ其賣却代ノ處分ヲ示シ物品交換ノ弊ヲ防ク

第五十二條 官有財産ヲ賣却セントスルハ其動産タリ不動産タル

ヲ論セス總テ公告ノ上競争ニ付スヘシ但特別ノ法律ヲ以テ定メタル場合及ヒ概算價格千五百圓ヲ超ヘサル不用ノ動産ヲ賣却スルハ此限ニ非ス

説明 本條ハ官有財産賣却ノ方法ヲ定ム

第五十三條 大藏大臣ハ總テ官有不動産ノ官用ニ供セラレタル者ト

否トヲ區別シ其種類價格ヲ明示スル所ノ總目錄ヲ調製スヘシ

説明 本條ハ財産目錄ノ調製ヲ規定ス

第五十四條 各省大臣管理ノ動産不動産保管検査及ヒ價格ノ制限保

存ノ期限ニ係ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

説明 本條ハ官有財産取扱規則ノ基ヲ立ツ

第七章 雜則

第五十五條 會計検査院ノ職務權限ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム

説明 本條ハ會計検査院ノ職務權限法律ヲ提ク

第五十六條 大藏大臣若クハ各省大臣ニ隸屬スル所ノ各會計主務官

ハ自己ノ所爲ニ因リ歳入ノ徴收スヘキヲ徴收セス經費ノ支出スヘカラサルヲ支出シ若クハ其他ノ事項ニ因リ政府ノ損失ヲ來スコアル時ハ其故意私曲ニ出ルト過誤失錯ナルトヲ問ハス會計検査院ノ判決ニ據リ政府ニ向テ之ヲ贖償スルノ責任アル者トス

説明 本條ハ會計主務官ノ責任ヲ明カニス

第五十七條 前條ノ責任ヲ愼ムル爲メニ各會計主務官ヨリ身元金ヲ預金局ニ向テ預ケ入レシムルコアルヘシ其金額及ヒ規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

說明 本條ハ身元金ヲ定ム

第五十八條 各會計主務官計算書及ヒ證憑書類ノ提出遲滯シ定期ニ後ル、時ハ會計検査院ノ判決ニ據リ同院ニ於テ五百圓以内ノ罰金ヲ命スヘシ

說明 本條ハ會計主務官ノ罰法ヲ明カニス

第五十九條 政府ニ屬スル所ノ現金一切ノ取扱ハ五十ヶ年以内ノ年季ヲ定メテ之ヲ日本銀行ニ委託スルヲ得而シテ該事項ニ關スル政府ト日本銀行トノ規約ハ勅裁ヲ經テ之ヲ定ムヘシ

說明 本條ハ現金取扱ノ委託ヲ許ス

第六十條 本法第八條ニ據リ政府一般ノ歲計ヨリ分離シ別途ノ整理ヲ爲スヘキ者及ヒ府縣ノ財務ハ勅令ヲ以テ其特別會計法ヲ定メ之ニ據テ其會計ヲ規定スヘキ者トス

說明 本條ハ特別會計法ノ基ヲ立ツ

第六十一條 戰時ニ於テ陸海軍軍隊艦隊ノ會計事務ニ要スル特別ノ條件ハ特別ノ行政規則ヲ以テ之ヲ定ムル者トス

說明 本條ハ陸海軍軍隊艦隊戰時ノ會計法ヲ定ム

第六十二條 大藏大臣ノ管理ニ屬スル國庫金取扱ノ規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

說明 本條ハ國庫金取扱規則ノ基ヲ立ツ

第六十三條 本法ニ關スル事務執行ノ細則ハ其事項ノ輕重ニ從ヒ勅令若クハ省令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

說明 本條ハ本法細則ノ事ヲ示ス

第六十四條 本法ハ施行ノ準備整頓ニ從ヒ漸次之ヲ執行セシムヘシ但遲クモ明治二十四年四月一日迄ニハ悉皆施行スヘキ者トス
本法ノ施行セラル、ニ從ヒ總テ他ノ法令ノ本法ト抵觸スル者ハ消滅ニ歸スル者トス

說明 本條ハ本法施行ノ順序ヲ定メ且之ニ抵觸セル法令ノ消滅ヲ明カニス

湖南全省同業公會

印